



笑顔であいさつ

主幹養護教諭 佐野 裕子

「おはようございます。」冷たい空気の中、子どもたちの元気な声が響きます。十三小では、毎朝、校門で校長が、昇降口では交代で専科の教員が、教室では担任が子どもたちを迎えています。

子どもたちの朝の様子は、それぞれです。寒さを吹き飛ばすような声であいさつをする子、マスクの中でかすかな声でつぶやいている子、視線が合うけれど声はなく心の中であいさつをしている子など、なるべく多くの子どもたちの顔を見てあいさつをするように心がけています。中でも目も合わさず肩を落として通り過ぎる子やいつもと様子が違う子には、一日を通して言葉がけをしたり、担任に伝えて様子を見てもらったりしています。

私が、まだ小学生二人の子育て中の時、大いに反省する出来事がありました。1年生の下の子の機嫌が悪いまま5年生の上の子に学校に連れて行ってもらい出勤しようとしたとき、子どもたちの学校から電話がありました。下の子が通学路で泣いているらしいという内容の電話でした。急いで駆けつけ、話を聞いてから遅れて一緒に登校しました。

機嫌が悪いとは感じていたのに、もう少し声をかけて話を聞いてあげればよかったのです。朝の忙しい時間の中で気持ちの余裕がなく、結果、親子で気持ちのよいスタートを切ることができなかったほろ苦い思い出です。

2年生の保健指導で、朝ごはんを食べられなかった「あさおくんの一日」を絵カードで紹介しました。元気のないあさおくんに朝ごはんを食べてもらうためには、どんなアドバイスをしたらよいかという発問に、子どもたちは「早く寝た方がいいよ」「早く起きればいいんじゃない」と答えてくれました。早く寝たら、早く起きられて、朝ごはんを食べる時間があり、トイレタイムもとれて、登校後も元気で過ごすことができます。一日の生活はつながっていることを確認しました。

「早起き」「早寝」は、朝の余裕のある時間を作ります。それは子どもたちの様子や体調の変化に気付き、会話をする時間になります。豊かな時間が、笑顔で「行っていらっしやい」「行ってきます」になり、朝の元気な「おはようございます」につながります。

明日の朝も、笑顔の「おはようございます」があふれる十三小であってほしいと願っています。

